① 高田名物（十）城址の濠

〔高田新聞　明治44年4月13日〕

▲思ひ出多き城址は取拂はれて、殺風景の兵舎が並ぶ、些かに昔を忍ぶよすがは廻らした塹濠の夫れである、練兵の終った後はひっそりと静まり返って夕暮を晩食の喇叭が鳴る、とお濠の邊りは夕靄がこめて向ふ岸が朧となる、幾百年の水草に底は澱んで見えぬけれど、春の水の自らゆるやかに蓮の枯葉に漣もよらぬ、何處かでチャポンと蛙が飛び込む。

▲濠には魚が住む、城下の人に取りては、崩れかかった岸邊に蹲まって、半日の日永を釣魚に消して、三百年の昔を胸の中に繰り返すことが無上の至樂であったに相異ない、然るに陸軍省用なる白木の棒杭が四角張って立てられてからは絶対に釣魚は禁ぜられることになった、時勢の變とあきらめねばならぬ。濠で釣魚の出来ると否とは、町の人に取っては實益上何等の影響がない、あきらめも糸瓜もないが只癪に觸るのは禁止條件の但し書にある、其但し書なるものには軍人の家族は勝手に釣りが出来るとある、濠は陸軍の用地なるを以て一般人民に許さぬは聞えて居るが、軍人ならぬ軍人の家族迄に陸軍省の用地に侵入するの権利を與ふるは勝手過ぎはしまいか、一小事なりとて閑却に出来ぬ、陸軍のやり口は凡てこんな偏波が多い、軍人の家族に許し得るならば一般人民に何故に許し得ぬ、人を馬鹿にするにも程がある。

▲偕行社だったか其入口に下士以下脱靴と書いてある、卒の穿つ處も将校の足にして居るのも等しく靴だ、品質の上下はあろうが其踏む處は等しく天下の公道で、将校の靴には馬の糞が附着しないとは保証出来ぬ、如何に階級組織が軍隊の中枢を成して居るとは云へ、自覚したる若しくは自覚せんとしつつある現今の日本青年を遇するの途ではない。

▲拙者の友人に一年志願兵があったが生来頸が左に傾いて居たのを真直ぐにしろと命令を下した将校があった、是も矯正の一手段たるには相違ないが、軍隊の命令なるものは往々にして極度に走り人間の忍び能はざる點に迄及ぶことがある、是が具体的に現はれたものは兵卒の虐待問題が最近兵士二名の自殺者を出した、之は別に理由があって此問題とは更に関係ないとは仕合せであるが、没常識の人間に権力を與へると時々間違が出来て困る。

▲話がとんだ方に行って終って纏めるに困った、兎に角城の濠を一部に開放し一部に許さぬは穏当でない。

② 三百年間手を付けないお濠の鯉を捕獲の計画　六尺の大鯉に大亀子亀

〔高田新聞　大正8年3月31日〕

高田舊城本丸濠は数百年來鯉鮒龜の種類が棲息して殆んど漁獲したことなく随分六尺大の鯉が浮遊して居たなどと噂されて居た程で往年師團設置工事の際時の陸軍建築部は試に地曳網を入れて見たけれど仕方が不完全の爲め大鯉などは一尾も獲れなかったが今回田端の中辰商店等は師團経理部の許可を得て完全の方法の下に捕獲することとなり目下準備中ださうで其暁は例の六尺大の鯉なども獲れることであらうと今より大評判

鬼が出るか蛇が出るか　五尺大の鯉は愚か鮒も一尺五寸位のが群遊す

〔高田新聞　大正8年4月8日〕

三百年間手を付けなかった油の様にトロリとした高田舊城本丸の濠が田端の中辰商店や青果問屋さんが網元で大々的に鯉や鮒、大小の龜を捕獲しやうと手続中である、何分三百年間手を付けたことのないと云ふお濠とて六尺の鯉や箕位の大きさの鼈が群をなして居るとかお盆大の頭の鯰が泥中から頭を擡げて居たことがあるとか云ふ物騒な噂のある薬研堀で網が曳かれるのだ、網元の青果問屋を訪ねると「どんな代物が獲れるか判らぬが吃驚するやうな物が入るだろう、何分数十年網を入れた事がないのだから

△大漁は疑ひない餘り噂が高いので各地から団体見物の申込があり、長養館の主人公などは一網売って呉れいなどと前景気が素晴らしい、獵師は犀濱の漁夫で網は鰯網の極く目の細いもの、舟も蓮堀りの舟では小さ過ぎるので濱の舟を持って来る、それも一組や二組でなく場合に依っては幾組も入れる、若し又日中水が明る過ぎて魚族が網を嫌って不獵の場合は夜中窃かに襲撃する計画もある、何分最初の試みではあるし利益問題は別として奇抜な處を買って戴きたい」とのことであった、更に実際噂の如き化物の様な魚類が棲息して居るのかどうかお濠の事に明るい蓮取りの五分一町大森氏等を訪ねると「棲んで居ない處ではない、自分等の眼に触れたものでは五尺大の鯉は愚か六尺位のものは居る、二貫三貫と云ふ三四尺のものは殆んど群をなして居る、鮒も琵琶湖の源五郎鮒の如き一尺四五寸するのがどの位居るか判らぬ、鼈の大きいのは菅笠大のものは折々浮んだのを見た、鯰は三尺と云へば精々だろうが其外では小さな色々なものは居る、いもりの二三尺する奴が居るとか直径四五尺もある大鼈が居るなどと云ふが見た事はない、だが今度の網入も充分念を入れないと豫想外の事になる、内濠は中央が薬研になって居て深さ三間から四間で水底からは絶えずシューシューと噴水して居るから網が届いても吹き上げられやしないか、又日中は網の目が宜く見えるから狡猾な奴は網の吹上がる所から逃げる憂ひがある、それに時期が遅れて水が温むと魚も元気付いて少々位は飛上って逃げる、之れ等の事を注意したら大漁は疑ひなしだ」

との事だ、何にせよ折も折、堤上の櫻花も咲かうし近年にない奇抜な催ふしとて其の日の來るのを待たれて居る。

お濠の曳網甚だ振はず

〔高田新聞　大正8年7月21日〕

高田市民をして多大の期待を以て迎へられ人気頓に昂騰した師團舊城濠の網曳大會は昨朝來愈よ実施された、何が扨て数百年來網を入れた事のない深みで人間大の鯉四斗樽位の龜に必ず棲んで居るとの定評で少なくも其若干は捕獲されるであらうとの事から時節柄の炎天下の師團道路を喘ぎ來る老幼は引きも切らず遉がの高田偕行社の緑陰も今日は格別照り込む、されど群集は容易に怯まず刻一刻に人数は増して來る、曳網は兵器部倉庫に面した濠より順次に行はれ、其都度群集は固唾を呑んで六尺大の鯉の上るを期待して居るものの一向影を認めない、二三寸乃至六七寸の鮒が若干這入って來る計りで中には藻計りで空網の事は二三回も続けた群集は頗る失望の色ありで併し大口巨鱗ならぬ小口細鱗が其都度濠脇の水を盛って小舟に溌溂として居るので女小供は之れを見んとウヨウヨ群って居る、午前十時過ぎには西川師團長は瀟洒たる背広姿で會場に覗かれたが芳しい漁獲がないので間もなく引き上げた、斯くて網曳第一日は期待に反した不成績で終了したが今日から引続き三日間濠の面を掃除しつつ網を入るることになって居る。

▼午后に大鯉　一網に七八十貫　午前の不漁に引換え午后は網曳人夫始め一層馬力をかけ見物人も油が乗って來たが果然午后二時過ぎ、午前の兵器部倉庫側の處で三尺大の真鯉が這入って來た、見物人は大喜び引続き最後の一網で鮒が七八十貫の大漁、人夫等は容易に引き上ぐること出来ぬ、見物は一層湧き返る、斯くして午后四時第一日の網曳は終りを告げた。

大鯉やら鼈も十尾程　網曳の第二日目

〔高田新聞　大正8年7月22日〕

高田舊城濠の網曳は前日に引続き昨朝來正門西側の内濠で催ほしたるが見物人亦群集し午后四時迄八回曳いたさうだが前日以上の好成績で鯉二貫目乃至三貫目のもの三尾鼈十四而も二百目より五百目位のもの外に鮒が五六貫鮒が約二十貫の大漁ださうで今二十二日も続行する。

三日目のお濠の網曳き

〔高田新聞　大正8年7月23日〕

高田舊城濠網曳第三日目は師團司令部正門両脇を実施したるが連日の炎天なるにも係らず見物も相当にあり、朝の程は鮒の漁獲も尠くなかったが鯉、鼈なぞは影を見せず午后も多くは鮒が這入るのみで其儘場所で買人は頗る多く鮒百目七銭位の割合で一人で二貫目三貫目と買って行くものさへあった。

③　お濠貸下　有望らし

〔高田日報　大正12年6月27日〕

国有財産調査委員一行の歓迎晩餐会は昨報の如く高陽館に開かれたが席上五十嵐弥五八氏から師團の外濠拂ひ下げに関する希望が出て委員一行も此れを妥当の要求と諒承した、それは高田に一つの公園もなく児童の遊び場に困るのみならず市の體面から謂っても甚だ貧弱だから師團設置当時市が無償寄附した縁故に対し今度は陸軍が不用地整理を実行中なるを幸ひ此の機に拂ひ下げを受けんとするもので、若しそれが不可能ならば貸下げでも良いと謂ふに在り、実現の可能性は充分あるので市の当局も力瘤を入れる事となった。

お濠を頂戴したい　市から申請書を

〔高田日報　大正12年6月30日〕

高田師團外濠無償拂下げの有望なることは既報の如くなるが一昨日河島市長は竹林税務署長と打合せ市会に諮り之れが速成を期する爲め同日左記申請書を作製、再び名古屋税務監督局を経由して大蔵省に提出した。

大正十二年六月二十八日

高田市長　河島　良温

大蔵大臣　市來乙彦　殿

国有雑種財産譲与の義に付申請

新潟縣高田市高田城町

一、池沼反別　二十一町四畝十七歩

一、田反別　二町八反六畝三歩

一、原野反別　二反七畝十二歩

一、畑反別　七畝十六歩

合計反別　二十四町二反五畝十八歩

内譯　別紙調書の通（省略）

右土地は舊高田城の外濠にして明治四十年中第十三師團御設営の際陸軍省用地として高田町（市制施行前）より陸軍省へ献納したる土地の一部に候處、大正十年法律第四十三號国有雑種財産として御省の所管に移りたるに付、国有財産法施行令第十條に依り寄附者たる本市へ譲与相成度申請致候、該土地は市の中央に位し舊城址の面影を存し風致自ら具はるを以て譲与相成候上は其の一部に若干の工事を施し市の公園として存置するを適当と存候處、現在に於ては頗る荒廃に属し衛生上にも可ならざるに付、市に於ては之を整理し其の一部は前申の如く公園として相当経営する外、現在の蓮池は風致上之を保存し或は進で其の一部を養魚池に供する等、従来池水を利用し灌漑の便を得たる稲田の利を害せざるべく傍々他の風致に関係なき部分

は収利の目的に供し蓮根其の他の収益と共に市の財源とし貧弱なる市の財政を緩和致度希望に候間、右譲与の義至急御詮議相成度市会に諮り此段申請候也

市の物になれば―

昨報の如く師團のお濠の貸下は大体に於て有望な如くであるが此れは先年既に市から申請した事もあり当局もその妥当を認めて居るので多分今度は認可されるであらう。（中略）此れが市の所有となれば域内に在る田の小作料と濠から出来る蓮根の拂下げで少くとも年額一千四五百圓の収入となる見込の由、此れが貸下げ（乃至拂下）を受けて後の所置に就ては今後の研究問題に属するが濠を埋立て運動場とする點から到底モノにならず且此の濠は一部出丸新開方面の灌漑用水の源泉であるから埋立は許さざるべく、結局は偕行社西方の一部に濠の四圍へ散歩道路兼競争路を造り自転車や馬の競技を行ふ一面には公園に似た風致を保たしめる程度に止まるであらうといふ。

十七年振りで市に戻った外濠

〔高田日報　大正12年12月13日〕

既報の如く師團の外濠は高田市へ無償拂下げの事に決し昨日その公式通知が市役所へ到達した、それは杉名古屋税務監督局長からのもので高田城町地内四十五筆の雑種財産を譲与の件許可すとあり茲に市の宿望は達した次第である、元来外濠は師團の設置に就き市が陸軍へ寄附したのであるから再び市の手に戻ったと同様であるが十三師團の設置と決するや明治四十年舊高田藩主榊原政敬子爵からあの外濠とそれに含まれる土地全部を七萬圓で高田町が買受け此れを四十一年の八月に陸軍へ寄附した事になってゐる、即ち十七年振りに戻った次第であるが税務署の調査に依れば（中略）その全面積は二十四町二反五畝十八歩に達し現在の価格は（税務署見積）二萬五千四百六十八圓八十銭となった、乃ち市は新に二萬五千圓の市有不動産を得た次第でこの外に濠の蓮根を拂下げる収入が毎年約三千圓許り入るから何にしても市の利益である。此れを理想の遊覧地乃至は体育場とするには詳細に研究する由。

懸賞で募れ外濠の利用法

〔高田日報　大正12年12月16日〕

陸軍省へ寄附した高田師團の外濠も国有財産法の改正で再び高田市へ逆戻りしたがこれが使用収益に就き竹林高田税務署長は語る「田畑小作料五百餘圓の外に入札による蓮根の収入が約千百圓であろうが、これは大蔵省の手でやってゐた時のことであって廻りくどいやり方をしてゐた爲め大切な蓮根の収穫期を逸することが多く従って充分の果実を挙げ得なかったが、市でやれば少くとも二千圓位の収益を得ることが出来るであらう、而してヨリ以上の果実を挙げるには家鴨を備ふとか養魚するとかするもよいが私の考へでは市民に対し懸賞募集をやったら面白からうと思ふ、これは私丈けの考へであるがこれから生ずる雑収入を市の経費に繰込まず、ないものと見て積立てたらどうか、仮に年収二千圓として年六分の複利で積算すれば三十年で十七萬圓、五十年で六十四萬圓、七十年で二百十六萬二千圓、百年の暁は千三百三十四萬二千圓と云ふ莫大な金になるから既に七十年後に於て其利子（年八分）で現在の市の諸経費十七八萬圓を得られ此後市の経費が如何に膨張しても百年の計を樹てれば百六萬圓の利子を生むから市民は一文も負担なしに暮して行くことが出来る、此例は紀州方面に五六ケ町村あるが強ち空論でもあるまい」と統計ハカセ丈に思ひ附きがこってゐる。

④　賑やかな夜のお濠端

〔高田新聞　大正14年4月18日〕

咲かない花を恨み乍らも昨日今日の暖かさに、お濠端一帯は、押すな押すなの人出であるが夜に入ってからは、一層人足が繁く司令部通りから偕行社構内一帯はそぞろ歩く人達で押し返すやうである。偕行社正門前の見世物小屋も鐘、太鼓ではやし立て、前は一杯の人だかりである、アセチリンの光もまばゆい露店商人の聲をしばって述べ立てる口上も聴かず人達はむやみに行ったり来たりする、呼物のラヂオはめづらしいばかりでなく、東京の放送がはっきり聴こえるので、皆感心して、大喜びである。野外映写も相当の人気を呼び高陽ホール等の飲食店も大入りで咲かない花の下に車座をつくってメートルを上げてる連中、たった一人で濠にうつるぼんぼりの灯影を眺めてゐる文学青年、粋なながしめを送って行ったり来たりする女、高田にもこうした夜の賑はひがあるかと、あやしまれる程であるが連日の天気に蕾も少しはふくらんだ今夜あたりは益々人出が多くなるであらう。今夜のラヂオの番組は左の通りで、本職そっちのけの飯塚氏が技師で、偕行社東側の窓から誰にも聴かせる。

△ラヂオ番組　十七日午後七時十五分

一、講演　普選実施に就き各自の心得

文学博士　紀平正美　氏

二、山田流箏曲　イ：櫻狩　ロ：七□□

箏　髙橋栄清　髙橋松子　越野栄松　他

⑤　高田名物のお濠の蓮　増殖を計画

〔高田新聞　昭和3年3月20日〕

舊高田城外濠は夏は大盆のような美しい緑をたゝへてハス葉は水面を覆ふて紅白の蓮華絢を競ひ一大美観を呈し

又秋及び春の二回に採取される蓮根は七千貫に達し、これが齎(もたら)す市の収益は或る時代には二千圓に近いことがあったけれど、その後蓮根の市価下落と採取人夫が独占的で賃金が高いため現在では僅かに市の年収三百五十圓に過ぎないので昨今市会議員の一部には何しろ外濠の総面積が二十一町歩もあることなれば此際蓮根の改良増殖を計って市の収益を増進せしむる一面舊城を繞(めぐ)る風光に一層の美観をそえようと唱導されつゝある、又これについて研究し自らこれに当らんと申出た熱心家もあるので或は遠からずその実現を見るやも知れないと

⑥ 五月幟(のぼり)の様な大鯉 お濠で網にかゝる

〔高田新聞　昭和3年5月5日〕

◇高田偕行社の常任幹事舟見さんは春の日のつれづれに太公望を極(き)め込んで釣りをしたり、網を投げたりして楽しんでゐます。麗かに晴れた四日の午後も偕行社のお濠で網を投げてゐました。不思議！網の中で黄金色のすばらしく大きな魚がおどってゐます。何だろう？半ば喜び半ば恐れをいだき乍(なが)ら網を引き揚ました。黄金色の魚それは世にも稀な大鯉でした。全身は春の陽に反射して黄金を散りばめた様に映え輝きました。舟見さんは聲をあげて喜び、早速入れものを探しましたが、魚が餘り大きいのでみんな駄目です。とう〳〵田端町のとある魚屋から直径五尺位の桶を借りて来て、漸く間に合せました。

◇鯉の大きさは長さ三尺九寸幅一尺八寸目方約四貫余、口径二寸です。金色に輝く鱗も素晴らしく大きく直径二寸位のがあります。古老の話に依ると少くとも五六十年を経たものだろうとの事です。目下偕行社の玄関で一般の人々にも見せてゐます。旅團や連隊区の兵隊さん達は大鯉を見て「五月幟の様だね」なんて感嘆詞を連発してゐました。

◇大空には男の子の幸を祈る五月幟が各所で翩翻(へんぽん)として翻(ひるが)へってゐる時、古城の濠で世にも稀な大鯉がとれたといふのは何となく面白い事ではありますまいか。

お濠の大鯉はお家へ帰された
井上旅團長のお情け浦島の龜の様な話

〔高田新聞　昭和3年5月6日〕

◇偕行社の舟見さんが大鯉を捕まへたといふ話が次から次へと伝はって、偕行社の玄関は見物人で一杯です。

◇「お濠の主が捕まったそうですね」飛んで来た男が大きな水桶の中をのぞいて今更の様にたまげました。「何に主なんていふ程のものぢゃありませんよ。天気のよい日にはこんなのが十五匹位水面に浮いて遊んでゐる事が多いです。内濠外濠を合せて少くとも百五十匹位はゐるだらうと思ってゐます。いつか一度は捕まへて見たいと思ってゐたのですが、なか〳〵捕まりませんのでね…」舟見さんかくいひながら鯉を取りあげて見せました。春の陽に鱗が黄金色に輝いてゐます。「綺麗だな」人々は思はず感嘆詞を発しました。舟見さんはそれから又語を続けて「網は少し破けましたがね…然しおとなしいものです。ちっともはねたりなんかしませんとまるで古武士が既に観念して死につく時の態度の様で、生捕ってこうして眺めてゐると涙ぐましい様な気さへ起きて来ます」と語りました。

◇昔から勇壮なものに鯉の瀧上りが数へられます。けふ此頃大空に翻へる五月幟はそれを表象したものです。端午の節句に五月幟を立てるのは、瀧上りの姿がいさましいのと、今一つには瀧上りが上へのぼる事なので、可愛い吾子がいさましく上へのぼる様に一出世する様に一との意をふくませたものだそうです。どんな因縁か知らないが丁度端午の節句に未曽有の大鯉が捕れた事が第一不思議です。偕行社でも初めからこれが話題になってゐました。

◇偕行社では遂に殺して食ったりなんかするのはいけないといふ事となり井上旅團長なんかの主唱で、高田市の子供達の幸を祈るといふ意味で再びお濠に放してやる事に決まりました。五日の正午頃舟見さんは大鯉を濠へ放ちました。鯉は嬉しそうに水深く泳いでゆきました。舟見さんは亀を放してやった浦島の様にいつまでも〳〵その行方を見送ってゐました。

◇五十年も生きて居るといふ大鯉はかくて再びもとの古巣へ帰っていったのです。今頃は妻や子供達や友達等に高田の人々の情深い？事を話してゐる事でせう。そして高田の子供達に幸運を齎すべく相談してゐるかも知れません。それにしてもこの大鯉があの浦島太郎の亀の様に、情深い舟見さんを迎ひにくる事はないでせうか。

⑦ 修理せねばお濠のプール使用禁止

〔高田日報　昭和3年5月13日〕

在高中等学校が旅團内濠を第二師團経理部に交渉してプールとして二三年來使用して来たが軍隊当局の犠牲を無視して偕行社から旅團司令部に通ずる道路の如きは殆んど崩れて其の儘(まま)に放置せば跡形もなくなる状態にも何等修理の途を講ぜず脱衣場からプールの西側もこゝ二三年で三尺餘も崩れ込み延いては風致を害するに至ったので昨年軍隊当局から修理方を交渉したが責任者としてなく只生徒のなすがまゝに学校当局は監督せず杭一本とて心配せぬので管理上甚だ怪しからぬと今年は或は使用を取消すかも知れぬと憤慨してゐる、貸てもらふ時は旨いことを言ひアトはどうでもいゝとは虫がよすぎる、軍隊の誠意を無視するとは甚だしいと語ってゐる。

⑧ 鮫が城の守護神　辨天祠建立

〔高田日報　昭和4年5月30日〕

高田市保勝會の幹部有志諸氏の発起にて、今年巳年といふを縁みて櫻、蓮の名所と言はれる鮫が城舊址に辨財天の祠堂を建立し、神体として此の程来市した木彫大家内藤伸氏一刀三禮の作と言はれる辨天立像を安置することに決した、位置は偕行社最寄の内濠端か又は瓢箪島の外濠際かのいづれかに選定さるべく、神体の極彩色に調和を保つやう中世式丹塗りの麗しい祠堂を新築する筈であり決定と同時に浄財喜捨の申出があるとのことである。

高田城址お濠の辨天堂は瓢箪島

〔高田新聞　昭和4年6月4日〕

高田市保勝會有志の発起で内藤伸氏の彫刻した辨財天像を神体とし舊城内に辨天祠堂を建立することに決したのは既報の通りであるが猶聞く所に依れば祠堂建立候補地は略瓢箪島に決し祠堂の前面には丹塗りの太鼓橋を架することになるらしく神像は善男善女のため一年一度櫻花の季節に開帳するとのことで既に辨天講中組織の計画もあり前景気頗る盛んである(後略)

落成式と併せ木造開眼式

〔高田日報　昭和6年4月15日〕

保勝會並に市当局が三年越して計画中の外濠の辨天堂は東都彫刻界の大家内藤伸氏に依嘱して御神体を刻み堂宇も過般来建設中の處花見もたけなわの二十日巳の吉日を選んで午前八時から現場で堂宇落成式及び木像開眼式を行ふことになった。

⑨ 撒水組合請願　内濠の水使用に関して

〔高田新聞　昭和5年6月24日〕

高田市撒水組合では今夏より自動車撒水を開始する事となり、その水源を内濠に求むる事としたので今回左の請願書を提出した。

従来は町々に於て撒水なし来り候處未實行の町をも包含して自動車で撒水なさんとする議が今回相□り候處之れが水源を内濠に求むるに非ざれば經費其他の關係上實行不可能に相成候に付ては保健衛生上喜ぶべき事案と存じ候故之れが助成の意味で内濠の水の使用分と濠端に揚水機を据付くる事を御認可相成度

奉請願候也

高田市撒水組合發起者

第二師團經理部長　佐藤□兵　殿

右に対し第二師團經理部当局より高田衛戍司令官井上旅團長に対し支障なきやを問合せて来たので井上旅團長は何等差支なき旨回答したから不日許可される筈である。

⑩ 蓮堀り外濠に始まる　旅物に押されて昔の面影なし

〔高田日報　昭和6年4月3日〕

水温む春、お城の櫻もふくらみ初める此頃高田名物の一つ、外濠の蓮根掘が始まった、尤もいゝ時期は秋である、今掘つゝあるのは其頃取り残されたもので外濠何千坪の中でも旅團長官舎の前から北へ偕行社の西迄は殆ど皆無である、其の他の地所の泥中に舟に乗り出したもぐり人夫が飛び込む、秋ならば二十分、今は一回に三十分、一回の取れ高約七貫目位、価格にして一圓七八十銭、一日に四回位這入って七圓程の収入ではあるが市役所への権利金や薪代等その他舟子の人夫賃等を入れると全く採算にならない、三十一日の午後和かな日ざしに三十分の泥潜りを終って忠魂碑前の焚火に手をあぶって権利者の仲町島田さんは「いゝ商売ぢゃありません、泥の中へ一日もぐって精々二圓位の儲けにしかならぬ、それも芳しい売れ高ででもあればいゝが近頃では追々と旅物に押されて問屋へ卸すにも平身低頭です、市役所の税金はある、家内は食はせにゃならんでどうもこんなつまらぬ話やねえと思やすがでもやらなきゃ食って行けねえと来てるんでして…」とつくづくと述懐する、全く往時は高田の蓮と言って相当の売れ口があったが旅物の大量移出で惨めな程である、実地の處此の地の蓮は決して品も劣りはせぬし煮物で食っては特別な味覚があるんださうだ、が何と言っても春尚浅く水深四尺泥二尺の濠の中に埋まって蓮掘の仕事も楽ぢゃない苦しみの骨頂、これもパンのための尊い汗の奉仕ではある。

⑪【高田所見】お濠の銃猟と鳥類保護(上)

〔高田新聞　昭和8年3月27日〕

昨年の春何十年ぶりにて高田にきて、お濠の附近に住居して見ると大抵の日にはお濠で銃声が聞こゆる。秋になって、新猟期になると、初猟の朝よりアチラにも、コチラにもお濠の中のばんや鴨打に無中になってゐる狩猟家を見た。中には高田在住の軍人さんなども時折見るのである。甚だしきは、何れの人か内濠で鴨猟をして、多獲の猟にゆう〳〵と傲り顔してゐる者さへ見受けたといふものがあったやうだ。(後略)

【高田所見】お濠の銃猟と鳥類保護(下)

〔高田新聞　昭和8年3月29日〕

直言すれば、余は内外お濠の銃猟を禁止して、こゝに蕃殖する野鳥を保護したいのである。狩猟関係の法規より解釈すれば、お濠は自体銃猟禁止の場所である。内濠が旅團の構内であって銃猟が出来ぬのは言ふまでもない。然るに内濠の附近に銃を肩にしてゆう〳〵と獲物の鴨を腰に下げてゐるのを見たといふ、その見たたわけ者は何れに居るか。外濠は市街の方より打てば、旅團の建物に向って打つことになる。旅團の柵を破りて構内に入り、その方の濠の畔より打てば、衆人通行の公道に直面し、且つ人民の住宅、学校、図書館等がならんでゐる。旅團

の番兵はその構内に狩獵家の立入り、軍人と雖(いへど)もその柵内より銃獵するをゆるさぬ筈である。
自体銃獵禁止の場所に銃獵禁止の立札もおかしい。犯すものは軍人と雖も容赦なく罰すべしだ。（後略）

⑫ 高田城址の黎明　葉桜蔭の太公望

〔高田新聞　昭和8年5月10日〕

初夏の朝紫雲をわって静かに上る旭日を拝しつゝ高田城址の風景をさぐる・・・外濠の面には温泉の湯煙にも似た水蒸気がユラ〳〵と立上り汀(みぎは)の柳の若芽をしたふ葭切(よしきり)が夢からさめて朗かな唄を歌ってゐる。自転車に乗った魚釣りがスピード時代これ見やしゃんせといはんばかりに二三本の釣竿をかついで内濠へと走る。街を清める散水車が出動して砂塵を鎮圧すべき彼自身が非常な砂塵を捲起してゐるのは散水車としての本質を忘れたものじゃないか、如何に人通りが少いだって偕行社前通りの道路も時には一滴の水をまいても別に法律にふれるといふ様な事はあるまい。
散って仕舞へばそれ迄よ・・・でトテモ奇麗な偕行社附近の風景には一向に一般市民諸賢が頗る無関心であって只内濠の周囲には十四五人の太小公望が糸を垂れてゐるだけ陽はだんだん上って來るとガツ〳〵してゐた魚も皆んな沖の方に散歩に出掛たのだらう二十分、三十分と時間だけは遠慮なく経っても一匹も針のミミズを食ふ馬鹿な魚はないが、どうした事か旅團司令部入口際の学生が一匹釣った。不思議だなア！と思って行って見るとさもあらんー片眼の鮒である。
午前八時近くともなれば連隊区司令部のT書記とS書記が出勤、「よを大部釣ったなアー」と一々人のバケツの中をのぞき込んで行った。そのうちに旅團高級副官の矢田さんが馬上豊に偕行社の前を横切ってやって来る。そして司令部の入口に一生懸命に魚を釣ってゐる学生を見つけて、先づやさしく言葉を掛けた。
「君、学校へゆくのは遅れんかねエ」「僕は学校を休むんです」「学校を休んで魚釣か」「それはいか〳〵」と相当手厳しい講義だ、然しその後から「君、あそこは釣れるぞ」と指をさして「いい加減にして学校へゆき給へ」と慈父にも似た親切な言葉を投て愛馬に拍車を入れ悠々と司令部へ急ぐ。
かかる一景が終るとどこかの先生が鼻たらし共を三四十人引っ張って偕行社の前に乗込んで来た「みんな笛を吹いたら集まるんだ」と一場の訓示よろしくあって一同は自由行動。そして黒ブチの犬をつれて来た先生様がお濠の中へ板切れを放り投てはこれを犬に取らせてゐる、悪戯ずきな先生にかかって犬もたまらねエ夢中でガブ〳〵と濠の中を泳ぎ廻ってゐた。

⑬ 辨天様不在と知らず　お賽銭をあげる

〔高田新聞　昭和8年5月11日〕

毎度でシツコイ様だが高田市の人は城址附近のあんな風景のいゝところを放って置くんだらうか、青葉、若葉に風薫り早葉(さなが)の緑に點綴(てんてい)せる真赤な八重櫻や牡丹櫻の咲いてゐる、宛ら天国にも等しい素晴らしい風景を観賞することを知らないのだらうか、もっともある人は高田は至るところ湘南地方にも増した風景ばかりだと褒めてゐた。
街の真中に広大な畑や猛獣でも出て来さうな大森林のある都市なんてそんなに沢山あるまいー称して杜(もり)の高田と云ふんである・・・されば市保勝會や何かが「舊(きゅう)騎兵隊跡を高田の公園にすべし」なんて熱を上ても何で市民が動きませうって全くその通りチャチな公園は不必要と云ふもの・・高田市それ自体が立派な公園じゃないのかなア・・
次はその天然公園高田市内で拾った実景―紅ガラ御堂の辨天(べんてん)さん事本名伊都岐島(いつきしま)神社に十日の昼下り、トテモ大した別嬪さんが社殿の前で跪(ひざまず)いて「何卒三原山へ行かんでいゝようにどうか彼氏と・・」なんて願ってゐたかどうかはいざ知らず一銭玉を気前よく投込んでゐたが一体全体あそこの神様は花見期間中のサイ銭だけを持逃げ？してたしか川原町の神明さんかどこかに引揚ちゃったんじゃなからうか、さうすると彼女はミスミス一銭玉を捨ちゃってた事になる、初夏の風景としてはザンコクの極みではあるまいか。だからどうだらう、今後も斯(かよう)様な人が出ちゃ気の毒「辨天様は目下引籠中」とか「目下旅行中」とか標札でも掛て置く事にしては。（後略）

偕行社西入口前の濠の島（現古径美術館脇）に建てられた伊都岐島大神（弁財天）祠堂